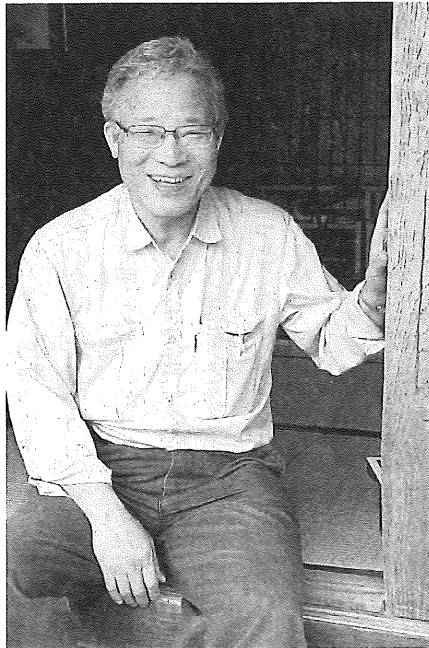


まず資源管理を

新たな森林ビジネス起業も



「森の国の再生」を目指す愛媛大特命教授
林 和男さん(66)

1946年、名古屋市生まれ。名古屋大助手を経て89年に愛媛大助教授、95年に教授。農学部長、副学長を歴任し、昨年4月から特命教授として森林環境管理の修士課程、社会人特別課程を担当する。木材加工論専攻。東温市在住。

「森の国の再生」を目指す特別プロジェクトが愛媛大大学院にある。森林が7割を占める県内での地域づくりや「森林ビジネス」などをテーマに、森林環境管理の修士コース(2年間)と社会人コース(1年間)。3年目に入ったプロジェクトを特命教授として率いる林和男さん(66)に聞いた。【松倉展人】

—プロジェクトを せねば日本は成り立たない理由は? 中山間地を活性化させない、という思いから

を実践できる人を育てたい。戦後長く、安い外国産材に木材の利用や研究がシフトされた影響で、「森を知らない木材業者」「木材利用を知らない林学者」が生まれました。森林を生かした地域再生のための人づくりです。— 学生はどう学んでいくか。土壌や水資源

は。社会的、経済的にどう森林経営を続けていくか。基礎的なインターンシップでは森林組合に2カ月間入り、山の持ち主や消費者の意識にも触れます。— 森林ビジネスにも積極的ですね。ビジネスがなければ地域は復活しません。IT(情報技術)やトレジャーサビリティー(生産流通履歴把握)を知る人が新しい林業を興す

時代です。今年度から「起業論」「林業マネジメント論」も取り入れ、林業ビジネスマンにも講義をお願いしています。社会人の「リカレントコース」(18人)には建築家や市町職員に加えてIT会社員もいて、消費者に結びついた林業を考えたいという熱意を感じます。地域の発展に責任を持つという愛媛大の方針に直結したコースと自負しています。

ひと

えひめ



2013年6月29日(土)
毎日新聞 愛媛面掲載